

# 新! 中央公民館ができるまで 07



多賀の山々や動植物などが描かれたホール緞帳のイメージ(部分)

## 地域の方々と取り組む「ふるさと多賀の食まつり第2弾」を計画中!

11/3(土)・4(日)の「あけぼの20周年まつり」にあわせて、「ふるさと多賀の食まつり第2弾～大地のめぐみを食べちゃうぞう～」の開催を、多賀あけぼのパークと多賀語ろう会が協働で企画しています。町内の食に関わる皆さんによる出店や、多賀の飲食店や食の情報が載った「食マップ」の展示・配布、料理開拓人として生産者と生活をつなぐ活動をされている堀田裕介さん監修による地元食材と風景を活かした展示「foodscape!」などを構想しており、多賀の食の魅力について再発見し、「人とモノを結ぶ場」となるイベントを目指して準備を進めています。



食材を風景のように並べた「foodscape!」のイメージ

## 新多賀町中央公民館 - 多賀 結いの森 - 観察記録 vol.02



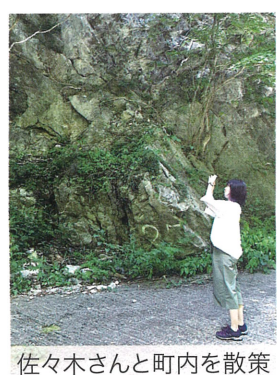
上棟して建物全体のかたちが現れ始めました

## 公民館の未来って? こんな場所を目指しています! vol.07

いよいよ新中央公民館の建物が姿を現してきました。多賀の山並みをモチーフとして多賀の自然を感じさせられる建物です。新中央公民館にすべての町民の皆さんが積極的に関わってもらえるような道筋を作ろうとしているのが多賀語ろう会と食部会です。多賀語ろう会で議論を進め、食部会では実践もおこないます。そのひとつとして11/3(土)・4(日)のあけぼのパーク20周年まつりで「ふるさと多賀の食まつり」を開催します。多賀町の食材をテーマとしてみんなで多賀を盛り上げていこうという取り組みです。そしてこの食まつりをさらに深めて、来年の3/23(土)の新中央公民館オープニングイベントでの食まつりにつなげていきます。新中央公民館を核として、みんなで多賀町を盛り上げていけるように、皆さんのご協力をよろしくお願いします。(生涯学習課)

## 多賀の風景を取り込んだ ホールの緞帳づくり

ホールのシンボルとなる緞帳は、旅先の風土や古い物語を元に作品づくりを行うアーティストの佐々木愛さんに協力してもらい、多賀の風景をイメージしたものを計画しています。多賀ならではの山々や植物が描かれ、町の皆さんが世代を越えて語り継ぐことのできるような緞帳づくりに取り組んでいます。



佐々木さんと町内を散策



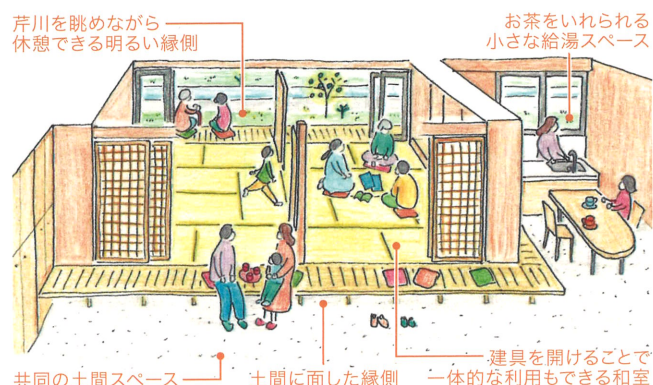
緞帳会社と作り方を打ち合わせする様子

## 新しい中央公民館には こんな場所があります



### PART.6 和室

会議室のあるゾーンの奥側には、芹川に向けた明るい窓辺と縁側のある和室が2つあります。それぞれの部屋は建具でゆるやかに仕切られており、皆で過ごすことのできる一体的な和室としても利用できます。



芹川を眺めながら休憩できる明るい縁側

お茶をいられる小さな給湯スペース

共同の土間スペース

土間に面した縁側

建具を開けることで一体的な利用もできる和室



「多賀 結いの森」のまるまるさん、教えて！

今回は「多賀 結いの森」の建設に関わられている皆さんにインタビューしました。



前川 三幸 さん  
沓水 直人 さん  
株式会社 桑原組

わたしは  
中央公民館の

現場監督を  
しています



大工工事を  
しています

高田 大豪 さん

多賀町産の木材を使っている「多賀 結いの森」の特徴とは？

前川さん：建物的には大きな開口部があり、光を取り入れているので明るいんです。だから旧公民館のコンクリート造に比べれば、ずっと明るいので、会議やサークルなどもっと楽しく良い場所になっていくと思いますよ。世代によっても見え方や受け取り方は変わるとは思いますが、今までの公民館から新しい公民館に来ると、木造の方が良いなって思ってもらえます。

沓水さん：これだけ梁や木がみえているところは珍しいですね。明るさはもちろん、間仕切りも天井までいかず途中でとまっているので、さらに奥行きが感じられて広く感じます。地元の木材を使うということで、私たちが嬉しく、貢献させて頂けるということで、ありがたいなと思います。



機械工事を  
しています

湯本 武 さん

多賀 結いの森を建てるにあたり、各視点でのものづくりのこだわりは？

高田さん：約60人いる工事なので、例えば大工でもいろんな親方が集まっていて、今回のような斬新なデザインだと初めてのことも多く、話し合いはほぼ毎日していますね。職人さんの意見も生かされたり、皆で話し合い一番良い答えを出して進めています。普段は住宅とかを建てている職人さんが集まって作業をしているので、中々ない現場ですね。

湯本さん：こだわりといいますか、機械設備的に言えば、図面を見た限りでは簡単な仕事だなと思いました。でもいざ始めてみると、どこに配管を通したら良いのか苦労したりしています。

古川さん：電気設備も配線・配管のルートや機器の納まりをどうすれば良いかは、日々考えながらやっています。天井を張らずに梁を見せる設計なので、配線を見せないようにするのが大変ですね。

大工職人の辻 正明さんにもお聞きしました！

大変なこともあるけれど、こうやって出来上がってくると、自分の作品として残っていくから、皆で決めたものだから楽しいです。皆でひとつのものをつくっていくんだから、大事にしていきたいですね。大工冥利に尽きます。



電気工事を  
しています

古川 純 さん

建てていく過程で、楽しみなことや苦労することは？

前川さん：図面から3次元になっていくのは見て分かるので、模型が原寸大になっていくという楽しさがあります。でも、これだけの大きい木造をしかも平屋でつくるので、かなり難しいですね。多賀大社さんに無事に終わりますようにと見守って頂きたいです。

沓水さん：図面だけではなく、パースとかを見せて頂いて「ああ、そういう造りになっているんだな」と理解しながら進めていますね。

現場に常駐している設計担当 o+h の長柄 芳紀さんにもお聞きしました！

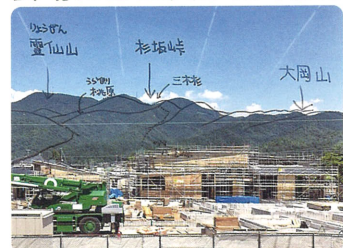
八重練に住みながら自転車で現場に毎日通って、監督さんや職人さんたちと話し合っ進めています。自分で図面や模型を作成していた建物が、どんどん出来上がっていくことに喜びを感じますね。



建設中の新中央公民館を眺めながら説明会を開催しました！

新中央公民館の起工式から月日がたち、工事が着々と進んでいます。建物のかたちが見えてきた7月には、町の皆さんに向けて新中央公民館についての住民説明会を開催しました。工事の様子が良く見える現在の中央公民館で、設計者や役場の担当者、多賀語ろう会のメンバーそれぞれから、建物のコンセプトや機能、オープンに向けての取り組みについてプレゼンテーションを行いました。防災や各室の活用方法についてなど、貴重なご意見を頂きました。次回は1月に開催予定です！

会場には工夫がたくさん



会場の窓には山のかたちや名前が描かれ、新しい公民館から見える景色を想像できる仕掛けがありました。

新公民館について町の方々と語りあい



新しい公民館の建設現場を背景に、完成イメージ模型を囲みながら、町の皆さんと意見を交わしました。

三日月知事も現場見学に



先進性や特色のある活動を行う方々との対話に取り組む滋賀県知事が、多賀語ろう会を訪問されました。